

流職警官慰籍請求愛国訴訟

東京府荏原郡〔某町某番地〕

原告〔甲野太郎〕

東京府荏原郡蒲田町蒲田警察署方

被告（署長）五味田秀

被告（司法主任警部補）笹原庄之助

被告（暴犯刑事）福田伊八郎

被告（〔乙川次郎〕方用心棒巡査）守分治郎

被告（医者）〔乙川次郎〕

被告（〔乙川〕方代診）〔丙山三郎〕

一定ノ申立及請求ノ目的

被告等八連帯シテ金一千円也ノ内金百円也ヲ原告ニ支払フベシ。訴訟費用八被告等ノ連帯負担トス。

請求ノ原因

（一）由来蒲田署ハ未開時代ノ警察伝統ヲ忠実ニ継承シタル流職、収賄、威圧、陵辱ヲ以テ名アリ。曩ニ一部不良警官ノ整理アリタルモ世評ハ吞舟ノ魚ヲ逸シタリト譏ル。被告等八孰レモ（但醫師代診ヲ除ク）光輝アル其署ノ警官ニシテ、各前記職務ニ従事中、

（二）原告ガ大森警察署ノ模範巡査石塚仙太郎ノ義侠ノニシテ同情的ナル懇願ヲ容レ、被告〔乙川〕醫師ニ対シ、〔乙川〕ノ亡妻〔花子〕ノ幼児（未入籍）〔四郎〕（被告〔乙川〕醫師ノ頭字ヲ採テ命名シタルモノ）ヲ抱テ路頭ニ迷ヘル〔花子〕ノ老母〔丁本由紀子〕ノ引取扶養方ヲ交渉スルヤ、

（三）〔花子〕死亡後直チニ後妻ヲ迎へ、〔四郎〕ヲ追出し〔由紀子〕ヲ寄セ付ケザル〔乙川〕病院長被告〔乙川〕醫師ハ、先ヅ斯カル時ノタメノ用心棒トシテ門柱ニ素素ヨリ、麗々シクモ仰々シク大門標ヲ掲示サセ、自分方ニ寄セシメ置ケル被告守分巡査及一家ヲ切テ廻ス被告〔丙山〕代診ト合議熟談ヲ遂ゲタル上、

（四）被告守分巡査ノ同僚關係及被告院長乃至代診ノ交友乃至交際關係、即チ被告等ガ常々地方田紳トシテ、会食招待頼ミ込ミヲナス關係ヲ利用シテ、茲ニ又辞ヲ卑クシ、声ヲ滑カニシ、利ヲ盛ニシテ、熱心他ノ被告等ヲ動カシ、謀議作戰、共同一致、敢テ才手ノ物タル人権蹂躪ノ暴挙ニ出デンコトヲ確ク決意シ、

（五）昭和三年八月二日午後八時、被告〔乙川〕ハ、原告ノ隣家訴外鈴木梅五郎妻ノ電話取次ニテ、原告ニ、翌三日午前十一時ヨリ十二時マデニ分院（原告方ヨリ二三丁離レタル〔某村某番地〕所在）ニ來訪方ヲ求メタルモ、原告ハ親戚ノ葬式等多用ノ故ヲ以テ、其旨ヲ伝ヘ伝達セシムベク、友人〔戊口五郎〕ニ依頼シテ、指定ノ時刻、指定ノ場所ニ出頭セシメタル処、其処ニ手具脛引イテ待構ヘタル被告福田、須賀ノ兩暴犯巡査ハ有無ヲ言ハセズ、訴外〔戊口〕ヲ強引シ、被告署長及司法主任ト謀リ無法ニモ同人ヲ二十六日間留置場ニ叩キ込ミタリ、

（六）被告等八作戰ノ齟齬ヨリ、其密謀ノ原告ニ洩レンコトヲ恐レ〔戊口〕ヲ始末シタルモ、尚其不安去ラズ、兵ハ迅速ヲ尊ブト稱シテ、直チニ署長室ニ全會議ヲ開キ、被告笹原司法主任ノ提議ニ基キ、八月三日午後一時頃再ビ被告〔乙川〕醫師ヲシテ、前記訴外鈴木方ニ電話ヲカケシメテ原告ヲ呼出し、先般來ノ交渉事件ニ付、円満ナル示談解決ヲ遂ゲタク、二三分ニテ事足ル故、是非必ズ二時マデニ分院ニ御自身御出ヲ乞フト哀願シタリ。依テ葬式ヲ控ヘタル原告モ止ムナク之レヲ諾シ、少シ遅レテ午後二時半頃、指定ノ場所ニ被告〔乙川〕ヲ訪問シタリ、

（七）指定ノ時刻ニ良キ鴨御參ナキ故、網ヲ張りタル被告福田、須賀ノ兩暴犯ハ青クナツテ署長及司法主任ニ報告ノタメ、一旦署ニ引返シタル留守ナリシヲ以テ、被告〔乙川〕醫師及〔丙山〕代診ハ一時原告ヲ応接室ニ通シ、何ヲ怖レテカ窓ヲ閉チ、錠ヲカケ、此間二人ヲ走ラシテ再ビ兩暴犯ヲ迎へ、兩暴犯ハ勇躍邁進原告ヲ蒲田署ニ強引シ、何等ノ取調モ、從テ又何等ノ言渡モナク、無法大胆ニモ、濫ニ原告ヲ留置場ニ叩キ込ミ、憫ムベキ僅カノ利益ノタメニ、被告〔乙川〕ノ請託ヲ容レ、八月三日午後三時ヨリ八月廿八日午前九時釈放ニ至ル間、不法ニ原告ノ身体ノ自由ヲ拘束シ、被告等共同ノ不法行為ニヨリ原告ニ堪ヘ忍ブベカラザル苦痛ト償ヒ難キ精神上ノ損害トヲ與ヘタリ、

（八）原告ハ自カラ申スハ鳥游ガマシクモ、家ニハ資産数万アリ、地代利子ハ優ニ其生活ヲ保シ、月収約数百円ヲ下ラズ、芳紀正ニ三十七才、敢テ眉目秀麗ト云ハザルモ、身体槐偉、病弱脱腸、曾テハ在郷軍人会ノ會長ヲ勤メ、曩ニ八月五ノメーデー示威運動ニ東都二万ノ組織労働者ヲ司會シ、金ヲ出シテ極力辞退コソシタレ、去年八国会議員候補者ニ、今年ハ又府会議員候補者ニ推薦サレ、荏原ノ一族皆地方有力者ナルモ、不幸原告本年ノ星廻リ悪シク、愛子愛妻続イテ逝キ、独身單身元氣頓ニ銷沈、病魔機ヲ捉ヘ、急遽將ニ湯治ニ出掛ケント計畫中、更ニコノ警魔ノ犯ス処トナル。痛恨何ゾ堪ヘン矣。此情勢ニ即シテ金壹千円也ノ慰籍料豈騰シト云フ者アラシヤ、

（九）然レドモ原告ノ本訴ハ、（一）時弊匡正ノ愛国訴訟ニテ、警察ナルモノノ現状本質ヲ社会大衆ニ暴露シ、天下ヲシテ首肯セシムレバ足ルコト、（二）被告〔乙川〕ニハ御馳走代ハ少額ナリトモ此訴訟費用ハ〔乙川〕ニ負担サセラルル故、警官ノ買収ハ結局高イモノニ付ク事ヲ覺ラシメ、被告警魔ニハ少シグライノ利益デ、意趣遺恨モ無キ者ヲ苛メテ結局夫レデガイツタカ、人ニ迷惑ケナカッタカ、モウコリコリハシナカッタカ、反省セシムル効能アリ、原告ニ取ツテモ、（三）從來原告ノ無産者解放運動ニ対シテ極力反対シ來リタル親戚一同ガ、今度ノ事件ノタメ漸ク警察ナルモノノ職責性質ヲ無茶苦茶ニ知り、痛憤激怒、真ツ赤ニ赤化シテ、警察、法律、国家ヲ呪ヒ、一致シテ原告ノ運動ヲ支持シ始メタル利益ト、（四）弁護士ガ常ニ、警察ハ無警察、無法律地帯弁護士ノ行ク処ニアラズ、正式裁判申立ハ無正式裁判申立、申立方法アラズ、言渡アルハ極上等、普通ハ釈放シテ後言渡書ヲ作ル、司法主任ニ面會ヲ求ムレバ署長ニト逃ゲ、署長ニ面會ヲ求ムレバ留守トナル。其間三日ハ忽チ経過、本人ヨリ申立ハ受ケツケズ、苟モ申立アレバ事件ハ全テ無罪、東京区裁判所模範判事柴田言一氏ハ曾テ公判廷ニテ之ヲ公言シ、警察事件ハ一件モ有罪ニシナカッタ。僕等ハ其レヲ知ツテイルカラ、行ケバ司法主任デモ撲ルカ殺スカスルヨリ外ニ道ナシ、ト、ドウ頼ンデモ警察ハ行テ呉レナカッタ理由ガ了解出来タ利益ト、（五）小山検事總長ガ機ニ触レ折ニ触レ再三再四、立場ノ故ニ言葉コソ濁セ、幸徳事件、赤旗事件、大助事件、龜戸事件ヲ見ルニ付ケテ、警察ノ無茶乱暴力大逆罪マデ起スノダ、警察ヲドウニカシナクテハナラヌ、違警罪即決例ヲ改正シ、自分デ捕ヘタ警察ガ自分デ裁判スルコトヲ止メ、一度ハ逮捕ニ關係ナキ検事ガ判事ヲシテ、申立有無ノ真意ヲ確カメセシメネバラヌトノ趣旨ニ決着スル警告ヲナス心配ガ漸ク理解サレタ利益トアリ、（六）又一部ノ者ガ主張スルカ云フ先方ガ先方ナラ此方ハ此方デ、不意打、与太打、石マキ、ピラマキ、以テ執念ク、意地悪ク、一生付ケ廻ス外、一番準備ノ薄イ時、一番弱イ家族ニ報復スルガ最モ合理有効ダトノ言ニ、少シハ同情出来ルヨウニナリタルト、彼此考覈傍以テ千円ノ一部百円ヲ請求ス、

（十）從テ本訴ノ管轄ハ当然区裁判所ナルモ、前記ノ如ク本訴ハ、愛国訴訟ニシテ、其ノ本意ハ暴露ニアルヲ以テ、管轄違ノ抗弁ヲ利用シ、益々所々方ニ暴露ヲ逞フセンガタメ、好ンデ故ヲ地方裁判所ニ本訴ヲ提起シタル次第ナリ。希クバ世ノ同病同志、智仁勇武ハ御世ノ御宝、疑心暗鬼ハ貴君ノ御損、民事裁判幾分刑事ト違イ、手下配下ノ手足ヲ借ラズ、独立独立デ証拠ノ裁判、証拠充分勝ツコトアレバ、犠牲反逆先覺義務ト、負ケテモ勝ツテモ閑セズ焉テ、愛国訴訟ト銘打チ以テ、此種訴訟續々提起、安ク積テ東京ダケデモ、一月千件一年萬件、特殊日本ノ特殊ノ事件、昭和聖代流行訴訟、裁判警察奔命因慫、止ムナク即決全然廢止、然ラバ即チ聊カ以テ、皇恩ノ萬分ノ一酬ユルニ庶幾カラシカ、愛国訴訟ノ淵源亦実ニ茲ニ存ス、

斯ノ道ハ實ニ我ガ被壓大衆ノ戰術トシテ労働者農民ノ俱ニ遵守スヘキ所、之ヲ古今ニ通ジテ謬ラズ、之ヲ中外ニ施シテ悖ラズ、我

レ諸氏ノ驥尾ニ附シ、俱ニ拳々服膺シテ、咸其撥ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ。

昭和三年九月 右原告代理人弁護士 山崎今朝彌

東京地方裁判所民事部 御中

< [ ] 内仮名、仮地名 >

< 以上は、山崎今朝彌氏が著作者である。 >

< 旧仮名遣いはそのままとし、踊り字は修正し、旧漢字は適宜新漢字に直した。 >

< 底本は、森長英三郎「山崎伯爵瘡作訴状の一例 - 警察署にたいする損害賠償請求 - 」『労働法律旬報』（労働法律旬報社）第186号18頁 >